

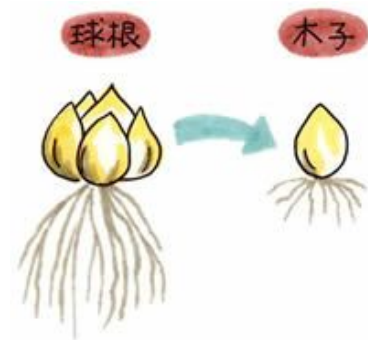
球根の掘り上げ・球根の植え付け・秋まき草花の定植・宿根草の株分け・庭木の刈り込み・防寒の準備と施肥	
2004年10月	秋まき草花が育ち、根を伸ばす時期です
秋晴れのあとには、まとめて雨が降ることがあるので、土はあまり乾燥しません。山では、美しい紅葉が見られ、初雪の知らせも聞かれたりします。そろそろ防寒の準備が必要になってきます。	
庭木の作業	夏以降伸びていた、庭木の刈り込みをする。
草花の作業	夏咲き球根を掘りあげて、保管する。 春咲き球根の植え付けは、この時期が適切。

球根の掘り上げ

アマリリスやカンナ、ダリア、グラジオラスなどは葉が黄色く枯れ始めたら、早めに掘り上げます。掘り上げる時は、シャベルを使用しますが、この時、球根を傷めないように注意しましょう。掘り上げた球根は、土を落として、オガクズやワラなどを入れた箱の中に入れて保管します。夏咲き球根の保存期は冬なので、寒さから守るためにこのような保存方法を行うのです。

球根の掘り上げ

1. 葉の3分の1くらいが黄色くなったら、スコップを株のまわりの30cmくらいの場所に差し込んで、球根を掘り上げる。球根を傷つけないように注意しましょう。
2. 掘り上げた球根は、水を土でよく洗い落としてから消毒する。茎や上根など、不要な部分は切り取り、2~3日中に植えつける。
3. 球根についている木子は、小さいが成長します。親株と同じように植えつけておけば、再来年くらいに開花を楽しむことができる。



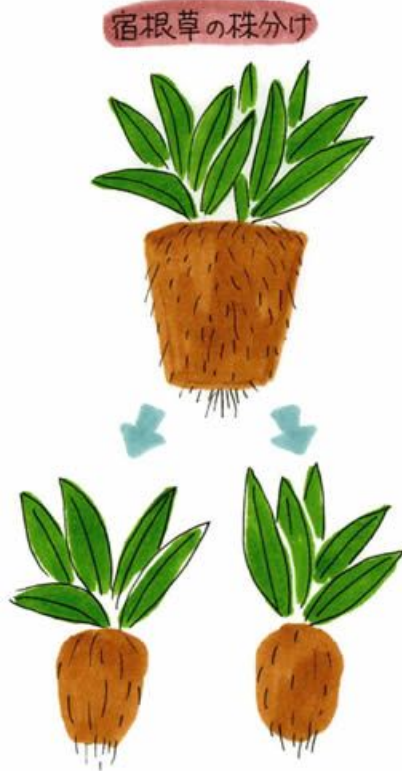
球根の植え付け

チューリップやヒヤシンス、クロッカスなどの春先球根植物の植え付けは この時期が最適です。日当たりのよい花壇に深さ10~20cmほどの穴を掘り、元肥を加えてよく混ぜ合わせ植えつけます。ムスカリは植えたままでも大丈夫ですが、4~5年に1回は掘り上げをしましょう。春咲き球根は、遅くとも12月までは植え付けを終えるようにします。よく乾かして分球したものをこの時期に植えつけるようにしましょう。鉢植えをあたためた室内に入れたら、開花が早まると考える人も多いようですが、むしろ十分寒さに当たったあと、暖かい場所に置くと、少し早く咲きます。

秋まき草花の定植

9月に種子をまいた草花は、10月中に移植をして、霜の降りる20日前には定植を済ませておきましょう。⇒霜の降りるまでに根を十分に張らせるため。冬の間、霜よけできるように、よく考えて定植することが大切です。定植する場所には、あらかじめ有機質肥料を施し、よく土と混ぜておき、土壌を整えておきましょう。

宿根草の株分け



宿根草は、基本的に植えばなしにしておいても翌年花を咲かせる植物で、毎年株を掘り上げる必要はありません。ただ、何年も放っておくと、のびた茎や葉が重なり合い、日当たりや風通しが悪くなります。下になった葉が日光不足になったり、蒸れてしまったり、枯れる原因になるので、3~4年に1回は株分けをしましょう。シバザクラやアルメリアなどの宿根草の株分けは、9月下旬~10月上旬にかけて行うのが適期です。

庭木の刈り込み



夏以降に伸びていた庭木の芽の成長もとまるので、この時期には、庭木の刈り込みを行い、樹形を整えます。この時期に行う刈り込みは、来春の成長期まで、この樹形のままに残るものですから、成長することよりも、樹形を美しくすることを第一に考えましょう。この時期に刈り込む代表的な庭木は、マキやツゲなどがあります。刈り込み方法は、新たにのびた枝を2節ほど残して刈り込み、サツキなどの花木は花芽を切らないように注意しましょう。

防寒の準備と施肥



10月下旬になると、庭木や花木はそろそろ休眠状態に入るので、根が活動している上旬のうちに、リン酸やカリ成分の多い肥料を施します。冬場の害虫駆除は、目の高さくらいの庭木の幹の部分にワラやムシロなどを巻き付けて、そこに害虫を誘い込んで春先に処分します。戸外で育てていた鉢花や観葉植物などは、今後家の中に取り入れるためのスペースを確保しておきましょう。霜が早く降りる地域では、芝生の防寒が必要なこともあります。